

上三川 近代化の歩み

明治維新から戦前まで

教育制度の近代化

日本の近代化を振り返ると、技術の進歩や行政制度などの発展に目が奪われがちですが、近代化の担い手となる人材を育てるための、教育制度の近代化を忘れてはいけません。

江戸時代には私塾や寺子屋によって教育が行なわれ、江戸時代の終わりには上三川町にも2か所の私塾と4か所の寺子屋があり、教育が行なわれていました。そして、明治維新直後の明治5年に、初めて近代教育制度の基本法令である学制が公布され、上三川町にも明治8年までに、お寺や民家などを利用し、10か所の学校が作られました。当時の小学校は下等小学（6〜9歳）が4年、上等小学（10〜13歳）が4年の4・4制でした。



昭和10年代の上三川小学校

法律では学校に通うことの重要性が強調されましたが、実際は、経済上の理由で就学できないのはもちろん、人々の教育に対する意識の問題から、就学できない子どもが多く、明治8年における栃木県の就学率は、わずか約47%でした。

また、その年の県内の学校では、80〜90%が授業料を徴収していました。しかし、同じ年の上三川町の学校をみると、授業料を徴収していたのは10校中わずか1校のみで、非常に教育熱心だったことがわかります。

やがて、明治19年に第2次世界大戦直後までの教育制度の基礎となる、帝国大学令・師範学校令・小学校令・中学校令が公布され、小学校令では、6歳から10歳までの尋常小学校の4年

を義務教育としたほか、明治33年には授業料が公費負担となりました。この結果、明治37年には、上三川町でも就学率が90%を超え、多くの人が教育を受けようになりました。

このように、教育の近代化によって、多くの人々が読み書きと知識を身につけることができるとともに、向上心が芽生ええました。日本の近代化は非常に短期間で進展しましたが、教育こそが原動力になったといっても過言ではありません。

上三川近代化の歩みと題して、1年間連載しましたが今月で終了します。上三川町の歴史について詳しく知りたい人は、『上三川町史』（全5巻・各2千円）・『かみのかわ歴史百話』（千円）を販売していますので、社会教育課文化係（☎56）9160）までお問い合わせください。

たね川柳

岡島香宝選

魔術師に気をそらされる目の視角

上蒲生 菅沼 マサ

十年記延べ日数は五年分 上蒲生 柳田 智江

孫の絵を破れ障子に貼ってみる

石田 大島 昇

初詣小さな金で大頼み

石田 柳田 政孝

折れる事知らない竹の立ち直り 上町 上野 広江

ハードルを下げて気楽に生きてます

上蒲生 菅原 妙子

玄関で冬ごもりする植木鉢 三村 上野久美子

効くと聞き効いた気分の新治療 石田 柳田キミ子

